

「須坂フルーツ発泡酒」を核とした果樹振興と賑わい創出事業 ～遊休荒廃農地解消に向けた果樹栽培と市内飲食店との「オーナー発泡酒」の開発～

交付金対象事業の背景と概要

<A. 地方創生として目指す将来像(交付対象事業の背景)>

長野県須坂市は扇状地のため、りんごやぶどう、桃などの果樹栽培が盛んであり、農業従事者の割合が高く、農業生産額のうち果樹が占める割合は8割を超える。ふるさと納税寄附者の約8割が須坂産果物を返礼品に選んでおり、実際に食べた方の評価は非常に高い。反面、担い手の高齢化などにより遊休農地(現在約100ha)の増加が懸念され、産地としての競争力低下、技術力の継承が危惧されている。そのため、国の制度を活用しながら、貸したい農地の情報を集め、希望者に貸し出す農地バンクや市独自の遊休農地解消事業を実施し、農地の有効活用を図ってきた。また、県やJAなどと協力し、担い手の誘致や熟練農業者を里親農業者として登録し新規就農希望者を指導する里親研修制度の充実を図り、徐々に新規就農者や農業後継者の数も増加してきている。

一方、好調なぶどう特需の中で、ぶどう畑(果樹棚設置済農地)の不足が大きな課題となっている。果樹棚施設設置には相当の投資が必要なため、新規就農希望者が就農を躊躇する要因にもなっていることから、この要因を取り除き、果樹産地としての基盤を拡大するとともに、地元産素材を使ったフルーツ発泡酒の製造販売により地域の産業の一層の振興を図る。

当市の強みである果物と近年人気の高いクラフトビールを組み合わせることで地方創生を実現させるため、2016年度、地方創生加速化交付金を活用して「フルーツ発泡酒」を開発した。「フルーツ発泡酒」事業を本格展開させるため、地方創生推進交付金を活用し、市内飲食店、温泉・宿泊施設の販売収益の増、遊休荒廃農地の解消、新しい果樹の振興を図り、新規就農者・農業後継者の増加につなげる。

また、新たな果樹として「カシス」を栽培する。「カシス」はぶどうやりんごを活用した発泡酒に数滴加えて、隠し味として使用する。遊休荒廃農地で鳥獣被害を受けにくいカシス栽培することで遊休荒廃地の解消にもつながる。

今後の計画として、2017年度はフルーツ発泡酒を瓶詰にし、市内飲食店等を中心に販売店舗の拡大を図る。2018年度はインターネット販売等により全国展開への足掛かりにする。2019年度は首都圏店舗を中心に全国展開する。域外へフルーツ発泡酒を売り出すことで農家、市内事業者、販売事業者の収益増加を図るとともに雇用拡大、移住者の増加へとつなげる。

<B. 地方創生の実現における構造的な課題>

- 市内で収穫した果物を食べた方の評価は非常に高いが、全国的には知名度が低く、須坂の代表的な地域資源を十分に活用できていない。
- 農業については、高齢化や後継者不足により、農業従事者が減少しているとともに遊休荒廃農地の増加が懸念される。
- 転入・転出者数では、19～24歳の若年層の大学進学や就職等による県内外への転出が多く、大幅な転出超過になっている。人口を増加させるためには、首都圏等に転出した若年層に戻ってきてもらい、定住してもらうことが重要である。
- 中心市街地の活性化が課題となっており、市民満足度調査では「商業の活性化」の重要度は高く、満足度は低い状況である。

<C. 交付対象事業の概要>

- 遊休荒廃農地で鳥獣被害を受けにくいカシスを栽培し、新たな果樹振興につなげ、カシスを生かしたフルーツ発泡酒を開発する。
- 地元鉄道会社との協働により、「ピアトレイン」の運行など、販売促進イベントを開催する。
- 市内飲食店等との協働により、オーナー発泡酒(各店舗オリジナルのフルーツ発泡酒)の開発、果物の収穫時期が品種ごとに異なることから、この時期にしか味わえない、果物の旬を大切にしたい期間限定のフルーツ発泡酒の開発などを行う。
- フルーツ発泡酒の原材料となる果物の収穫体験や、フルーツ発泡酒製造体験モニターツアーを実施する。
- 果樹棚の整備を促進し、新規就農者の確保と果樹振興を図る。
- 新規就農者の技術向上や経営の安定、ぶどうやりんご等の主力の果樹以外の振興を図るためのセミナーを実施する。

<D. 交付対象事業が構造的な問題の解決に寄与する理由>

- 発泡酒の販売及び果物のブランド化により、果物の需要が高まる。また、果物の販売単価が上がることで、農業後継者及び新規就農者が増加するとともに、カシスなどを栽培することにより、新しい果樹の振興となり、遊休荒廃農地の減少が期待できる。
- 市内飲食店等との協働によるオーナー発泡酒及びりんごやぶどうなどの果物の旬を大切にしたい期間限定のフルーツ発泡酒の開発、新たな特産品の販売により、市内小売店舗の収益増が図れるとともに、まちの賑わいを創出できる。
- 果物のまち須坂を全国にPRするきっかけになり、須坂産果物のブランド化につながる。
- 製造事業者がフルーツ発泡酒を量産することで、首都圏を足掛かりとして全国へ販売展開し、雇用創出につなげる。